

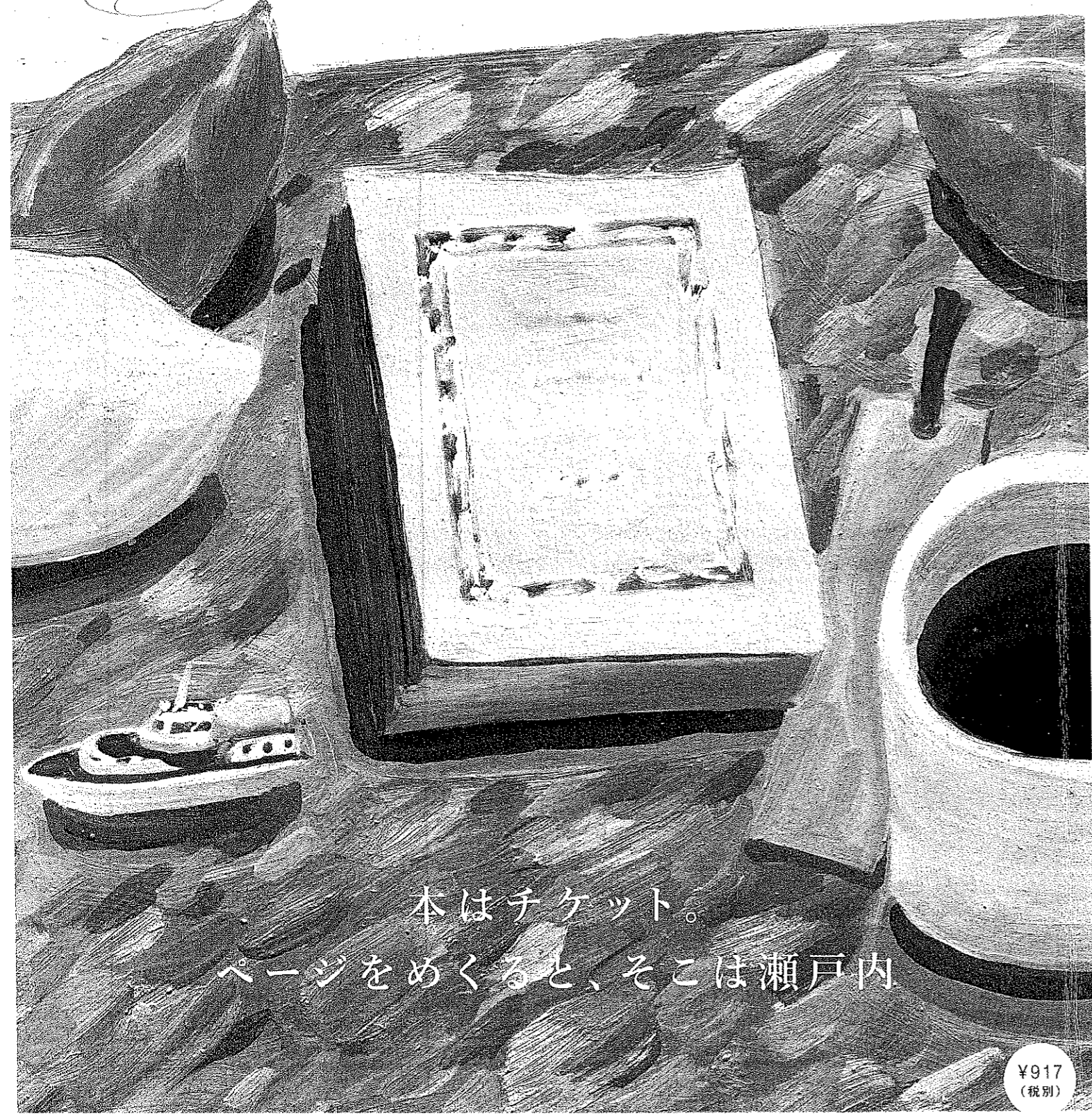
Interview 角田光代さん / 海を走る図書館「ひまわり」 / 瀬戸内の本屋・ブックカフェリスト

# せとうち暮らし

Culture & Philosophy Magazine from SETOUCHI

2016 Vol.20

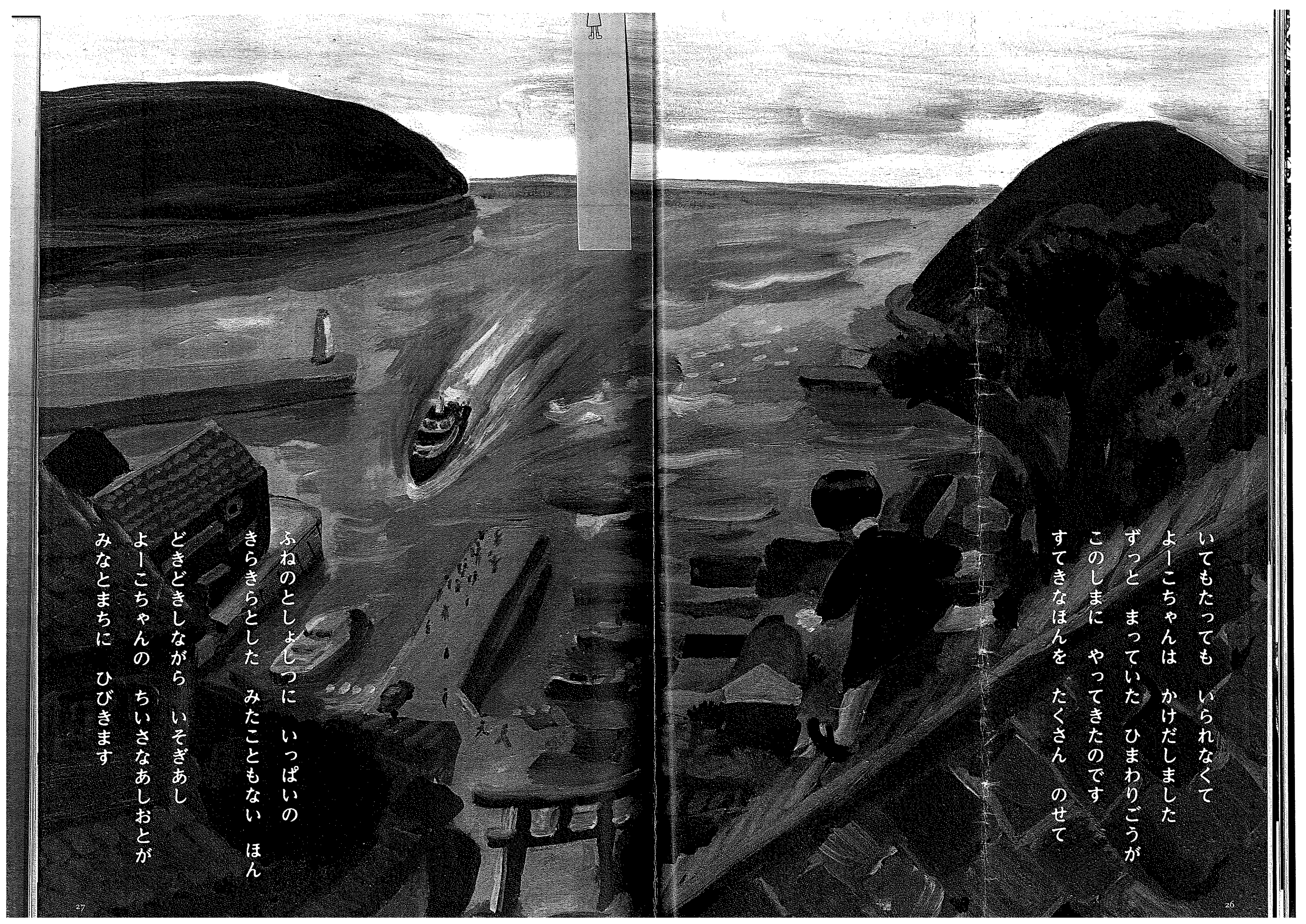
資料2



本はチケット。  
ページをめくると、そこは瀬戸内

¥917  
(税別)





いてもたっても いられなくて  
よーこちゃんは かけだしました  
ずっと まっていた ひまわりごうが  
このしまに やってきたのです  
すてきなほんを たくさん のせて

ふねのとしよしつに いっぱいの  
きらきらとした みたこともない ほん  
どきどきしながら いそぎあし  
よーこちゃんの ちいさなあしおとが  
みなとまちに ひびきます



# 島から島へ、 本を届けて。



海を走る図書館「文化船ひまわり」の物語

1960年代から80年代まで、

瀬戸内の島々をめぐる、

島の人たちに本を届けた船がありました。

名前は「文化船ひまわり」。

日本で唯一の船の図書館です。

島々が橋で結ばれるようになった頃、

移動図書館車にその役目を譲り引退。

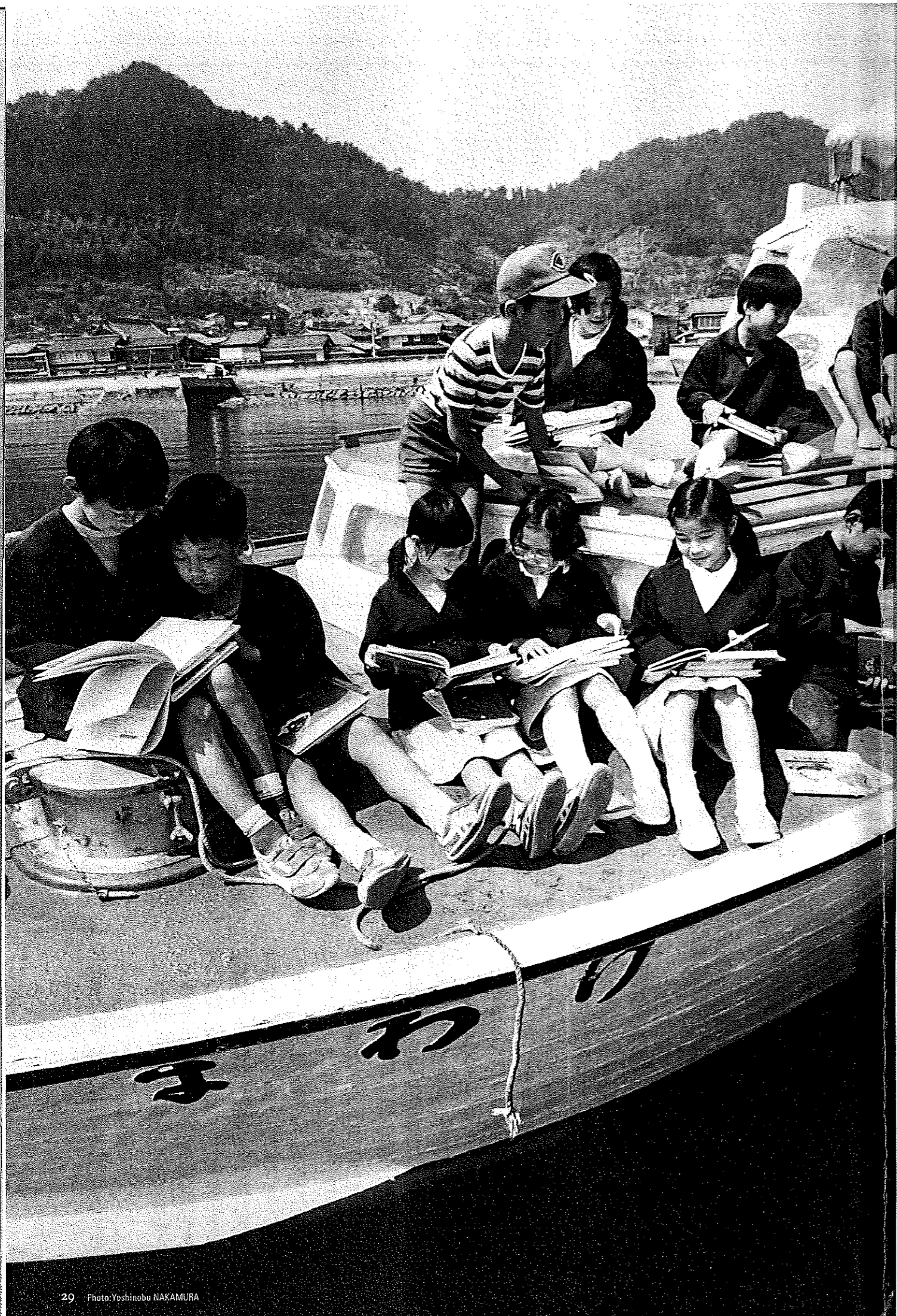
いまは尾道市の生口島いくちしまに保存されています。

「ひまわりに会いに行こう」

その旅は、ひまわりが生まれた広島県の

県立図書館を訪ねることからはじまりました。

取材・文／山本政子 取材写真／大池 翼 写真提供／中村由信、沖本照夫  
絵／nakaban 取材協力／広島県立図書館



2カ月に一度、  
本は船に乗って

両手いっぱい本を抱えて、船から降りてくるふたりの女性。家に帰るのが待ちきれず、港の桟橋に座り込んで本を読み始める子どもたち。背中におんぶ紐、赤ちゃんを背負いながら本を選ぶお母さん……。

古いアルバムの中の少し色あせたカラー写真。そこに写っていたのはたくさんの本と、たくさん笑顔でした。一枚一枚が「ひまわり」の大切な記憶です。

そのアルバムを見せてくれたのは、80年代に事業課長として「ひまわり」に乗船していた沖本照夫さん。

「船が島に近づく、島の人たちが桟橋で待っていてくれるのが見えてね。楽しみにしていてくれたんだとうれしかったです。当時は橋も架かっていなかったし、フェリーなどの定期航路もなかった。島に本屋や図書館ありませんでした。だから、50日ごとの訪問を楽しみにしてくれていたんだと思いますよ」

一枚一枚の写真を見ながら、当時のこ





とを話してくれます。

「島に着くとひまわりは棧橋に停泊します。昔でいうと、棧橋は島で一番の繁華街。島の玄関が配本所になったんですね。ひまわりに乗っていたのは、船長、機関長、船員さん。そして県立図書館の司書が2、3人。就航当時は広島県内の19の島々を、〈宮島コース〉〈蒲刈コース〉〈大崎コース〉〈因島コース〉の4つのコースで巡っていました」と話してくれたのは、黒川隆久さん。70年代から司書としてひまわりに乗船していました。

おふたりが乗船していた頃、ひまわりはそれぞれの島に約1時間ほど停泊。学校の先生に引率された小学生や中学生が棧橋で待っていてくれることもありました。到着してしばらくすると、島の人たちが次々と棧橋へ。なかには作業中のみかん畑から駆けつけてくる人もいたそうです。島の女性たちに人気だったのは、料理や裁縫、レース編みなどの実用本。新聞の切り抜きを持つてくる人もいました。島の産業であるみかんの作り方などの本も人気だったとか。

「ひまわりが次にやってくるのは、約2カ月後です。何巻にもわたる小説を借り



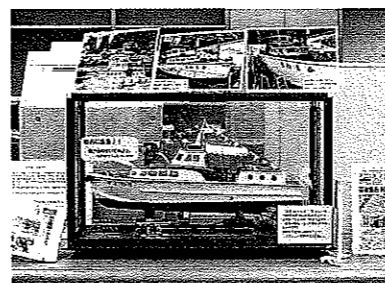
「ひまわり」に乗り込む走島  
(はじりじまノ広島)の子どもたち  
Photo:Yoshinobu NAKAMURA

待ちに待ったひまわりの来島。もし、自分が当時の子どもだったら、「ドナウ河のさざなみ」が聞こえた瞬間、きっと借りていた本を抱えて家を飛び出していただろう。そんなことを考えながら、「みなさん、図書館船が来るのを本当に楽しみにされていたんですね」と口にしたなら、「図書館船じゃありませんよ。文化船です」とおふたり。

実は、日本で唯一の海を走る図書館ひまわりの正式名称は、「文化船ひまわり」といいます。1962年、広島県でひまわりがうまれたときに付けられた、文化船という名前。そこには、広島県ならではの思いが込められていました。

### 二度と悲劇をおこさないために 島に文化を運ぶ

ひまわりは、1962年4月に就航。広島県によって江田島造船所で製造されました。全長は14メートル。船内に1500冊の本を積み、瀬戸内海の宮島、大崎上島、百島や因島、生口島など、19の島々を巡ったといえます。



左：広島県立図書館に展示されている「ひまわり」の模型 中：司書として乗船していた黒川隆久さん 右：事業課長として乗船していた沖本照夫さん

た人たちは、きっと次の来島日が待ち遠しかったでしょうね」と黒川さん。2カ月ごと、約1時間の滞在。島の人は次々にひまわりが来ることをどうやって知ったんだろう。島に来る日はわかっていても、いまこの時間、ひまわりが停泊していることがどうしてわかったんだろう。ふと気になって聞いてみました。その答えは「ドナウ河のさざなみ」にありました。

「島に近づく船のスピーカーからドナウ河のさざなみ」を流すんです。それが聞こえたら、あっ、ひまわりが来た！とみんなにわかる」。沖本さんが教えてくれました。ちなみに、この「ドナウ河のさざなみ」。1960年代からしばらくは、その都度、レコードをかけていたそうです。

そしてもうひとつ。当時、ひまわりを利用して来た人たちの多くが覚えていたことがあります。「ドナウ河のさざなみ」の後に聞こえてくるアナウンスです。

「こちらは文化船ひまわり号でございます。ひまわり号がやってきました。これから本の貸し出しをおこないます。お集まりください」

「文化船ひまわりは、平和を愛する人になるには文化に親しまなければならぬ」という、当時の広島県教育委員会や広島県立図書館の人々の思いからうまれたといわれています。教えてくれたのは、広島県立図書館の副館長、植田佳宏さん。「1945年8月6日、広島に原爆が落とされました。二度とこうした悲劇をおこさないためには、一人ひとりが平和を愛する人にならなければならぬ。そのためには、なにより文化に親しむなければならぬと考えたんですね」

その思いから、まずつくられたのが山奥の村を中心に人々のもとへ本を届ける、移動図書館車「みのり号」。1954年10月にうまれました。みのり号が立ち寄る村役場や公民館は、本を借りたいという人で毎回賑わったそうです。しかし、そんなとき、広島県には多くの島がある。そしてそれらの島々には広島県の人口の1割にあたる、20万人以上の人々（1960年代当時）が住んでいる。それらの島の人々にも文化を届けるべきではないか、という声がどこからともなくあがったといえます。

もちろん、橋は架かっていません。定



期航路のフェリーがない島がほとんどでした。みのり号では本を運ぶことができず。ヘリコプターをつくらうという案もでたそうです。しかし、せまい島ではヘリコプターが着陸できません。さまざまな意見がでた結果、瀬戸内海を自由に行き来できる船をつくることに決まりました。人々に文化を運ぶ船「文化船ひまわり」が生まれた瞬間でした。

**バンザイ！**  
本がやってくる！  
文化がやってくる！

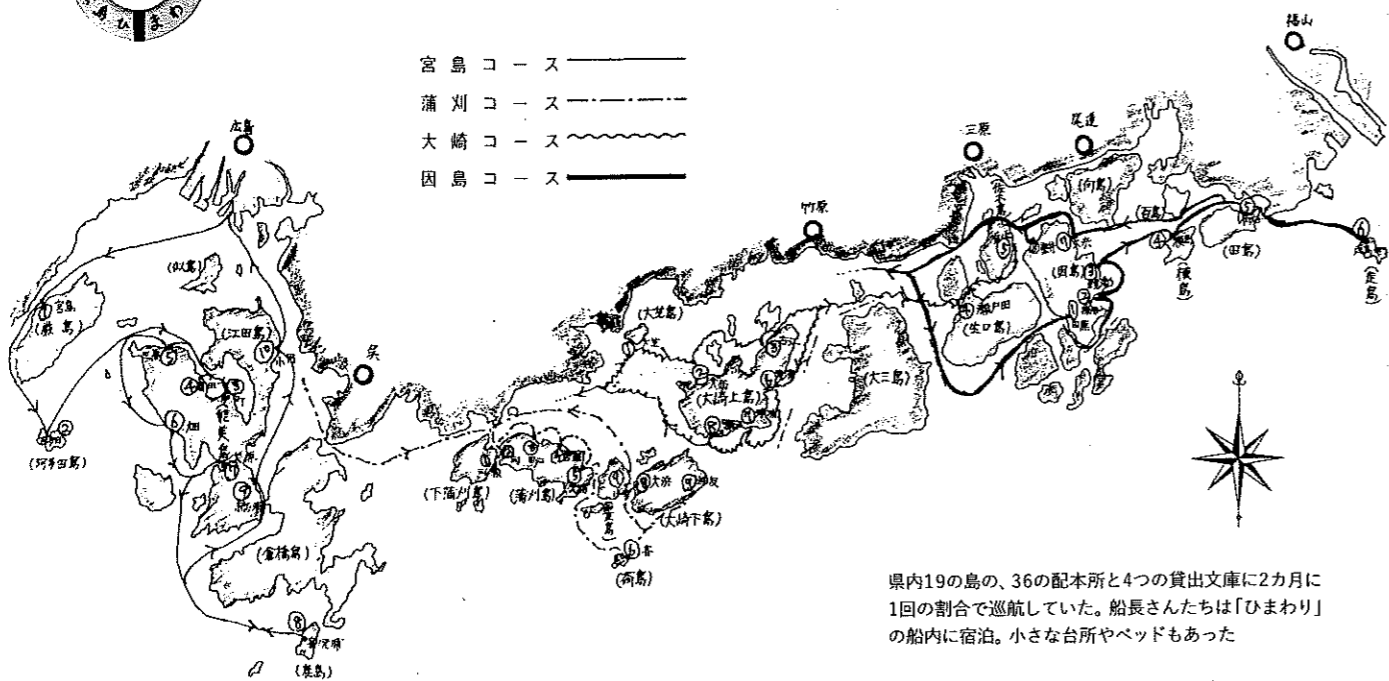
文化船ひまわりの蔵書数は約1500冊。しかし、ひまわりが運んだのは本だけではありませんでした。携帯テレビ、テープレコーダーが常備されていました。映画フィルムも積み込まれていました。船内では読書会が開かれたり、選挙など県政の広報活動もおこなわれました。植田さんに見せていただいた古い資料に、初代の松浦船長が、ひまわりで初めて島々を訪れたときの様子が描かれています。

「バンザイ！バンザイ！」と、プラス

昭和37年度 文化船ひまわり航路図



- 宮島コース
- 蒲刈コース
- 大崎コース
- 因島コース



県内19の島の、36の配本所と4つの貸出文庫に2カ月に1回の割合で巡航していた。船長さんたちは「ひまわり」の船内に宿泊。小さな台所やベッドもあった



バンド入りで、みんなが日の丸の小旗を振って迎えてくれた。本がやってくる！文化がやってくる！『海の世界』3月号昭和40年3月発行。どれだけ島の人たちが待ち望んでいたかわかります。沖本さんや黒川さんたちが乗船した頃にも、島内では活発に読書会がおこなわれていたといいます。また、ひまわりが運んだ資料で、女性たちを対象に消費生活や食の安全についての講習会なども開催されたそうです。

「1964年に東京オリンピックが開催されたでしょう。その頃、齋島には電気が通ってなくて、島の人たちはオリンピックを見るのができなかったんです。だから、その翌年に公開された市川崑総監督による記録映画『東京オリンピック』の16ミリフィルムと映写機をひまわりにのせて、齋島に行きました。小学校の講堂に島中の人が集まってね。涙を流して喜んでくれましたよ」

ひまわりには「お楽しみ文庫」というものもあったそうです。ひまわりの蔵書

1981年7月引退

の中心は小説や児童書など、人々が読みたいと思う本。その時期の新刊など、走るコースにあわせて選書されました。島の人たちはその中から自分の読みたい本を選び、借りていきます。でもなかには忙しかったり、何を選んだらいいかわからないという人たちもいました。そんな人たちのために、司書の皆さんが用意したのが、「お楽しみ文庫」でした。学校や子ども会向けに、児童書を中心にいろいろな本を30冊つめて、箱ごと貸し出していたそうです。

最後の航海は、「宮島コース」と呼ばれていた航路で、宮島の次に寄港した阿多田島で、お別れの式がおこなわれました。この日、県立図書館司書として乗船したのが、久永真弓さん。初めてひまわりに乗船したそうです。久永さんはお別れの式で、読み聞かせを担当しました。選んだ本は「島ひきおに」。島に属する本がいいだろうと選んだそうです。「島の小学校の講堂にたくさんの方が集まってくれました。上手に読めるかと緊張したことを今でも覚えています」

来年の巡回時期を決めるときには、農繁期は行きたくても行けないから、仕事が始まる前の朝一番に来て欲しいと、島の婦人部から要請があったり、いつもの桟橋にみかん船が停まっていたひまわりが停められなかったり。冬に阿多田島（広島）を訪れたときは、ひまわりのすぐ横で、小イワシ漁がおこなわれていることもあったそうです。ひまわりのそばには、いつも人々の暮らしがありました。人々の毎日に寄り添っていた文化船ひまわり。移動図書館船ではなく、ひまわりが文化船と呼ばれた理由は、こんなところにもあったのかもしれない。

1962年の就航以来、約20年間。島の人たちに本を届け続けた文化船ひまわり。島々に橋が架かり、フェリーなどが活躍するようになったことから、1981年7月に引退。その役目を移動図書館車に託しました。20年の間にひまわりを利用した人は約45万人。貸出総数は約70万冊にのぼりました。



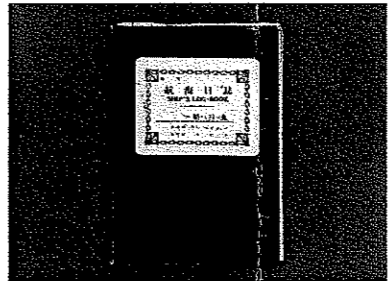


や絵、自分たちの手で折った千羽鶴など、たくさんメッセージが届けられました。

### 人々の熱意が動かした 解体から永久保存へ

ひまわりを取材しようと決めたとき、実はまさか、ひまわりに会えるとは思っていませんでした。引退から35年。写真は残っていても、船体は残っていないだろうと勝手に思い込んでいたからです。だから、文化船ひまわりが、尾道市生口島に展示されているとわかったときは驚きました。しかし、そこには35年という年月が確かに流れていました。船体の老朽化。ひまわりが島に保存され、展示されていることを、島の人たちも知らないという現実がありました。

同時に、「日本で唯一の文化船ひまわりが、人々の記憶から忘れられ、歴史を知られないうちに壊されてしまうのは、あまりに悲しい」と、その保存に立ち上がった人たちがいました。生口島の医師、永井晃さんと尾道市の童話作家、林原玉枝さんです。ひまわりが保存されて



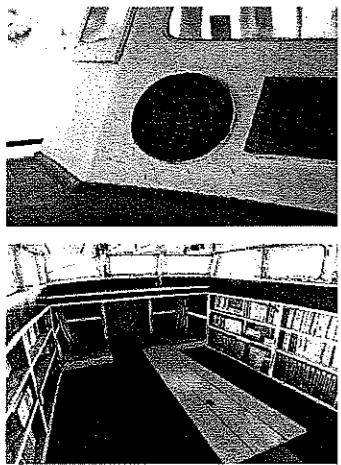
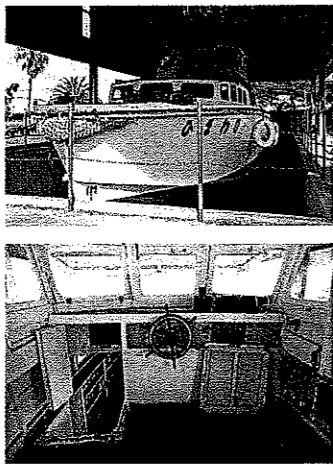
左：最後の航海に乗船した久永真弓さん 中：最後の運行当時の航海日誌 右：ありがとう。各島で開催されたお別れ会

いることは知っていたという永井さん。ペンキがはがれたり、窓ガラスが割れたりしていたので、きれいにしたらいいのにと思いつつ、いつも前を通り過ぎていたそうです。そんなとき、市が解体を決めたという話を聞き、「友人を誘って、週末に船体の掃除を始めました。道具もペンキも自分たちで持ち寄り。でも、意外に大変で。そのうち、地元の中学生在が校長先生と一緒に手伝いに来てくれました。6、7人来てくれたかな。昔はオレンジと白のツートンカラーだったひまわり。永井さんたちは、「いつかまた海へ」の思いをこめて、海を思わせる青色に船底を塗りました。

同じ頃、林原さんも知り合いから、ひまわりが解体されるという話を聞きましました。「瀬戸内海に図書館船があったことも知らなかったし、その船が生口島に保存されていることも知りませんでした」。すぐにひまわりに会いにいった林原さん。「これは残さなければと思いました。ひまわりの価値を知ってもらい、ここにひまわりがあることをみんなに知ってもらうことが必要だと思いました。離島に本を届ける船は、世界的にも貴重なも



文化船ひまわりの保存活動が続ける林原玉枝さん(左)、永井晃さん(中)、広島県立図書館副館長の植田佳宏さん(右)



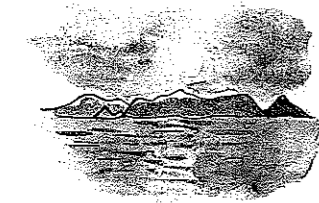
の。瀬戸田の宝。ここに足を運んでもらうことが大切ですね」

そして、放置していたら、また壊されるかもしれないと、ひまわりの歴史を語り継ぐ、「文化船ひまわりまつり」を企画。子どもや本に関わる活動をしている人たちと一緒に、当時ひまわりでおこなわれていた絵本の読み聞かせを再現するなど、多くの人でにぎわいました。

やがて、永井さんたちの活動は新聞などでも取り上げられるようになり、今年、市が解体方針を撤回しました。

一時は解体されようとしていた文化船ひまわり。現在、保存に向けて話し合いが進んでいます。夢は国の登録有形文化財登録。永井さんと林原さん、そして仲間の方々の活動は、これからも続きます。「移動図書館車は全国にあります。船の図書館は全国にひとつしかない。瀬戸内海の暮らした歴史を私たちに伝えてくれる貴重な資料。ひまわりの前に、ひまわりの歴史を流す音声ガイドができていいですね。定期的にひまわりの中でイベントをおこなうなど、永久保存に向けてこれからも活動を続けていきたいと思っています」

まっすぐにのびる光の道に感動

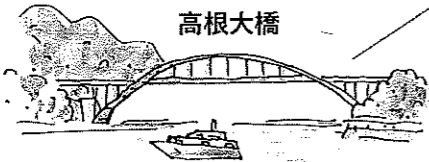


### 高根パラディーン

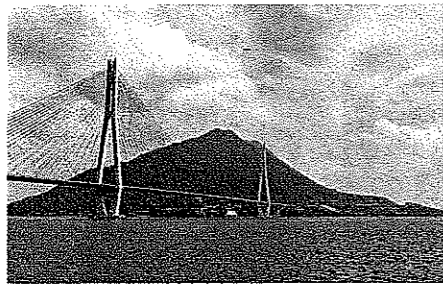
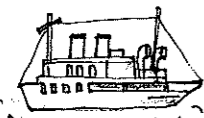
店主自らが古民家を改装した、リラックス感たっぷりのカフェ。島の空気と時間に調和させた音楽とともに、地元の食材でつくるメニューを味わってください。  
TEL:090-8993-1424  
ランチ11:30~15:00、  
カフェ15:00~18:00 ※予約制  
休:月曜(祝日の場合は営業)



### 高根大橋



瀬戸田港から船が出ています。



### 多々羅大橋

道の駅多々羅しまなみ公園からきれいに眺められます。

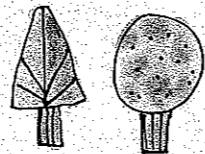
### レンタサイクルターミナル

電動アシスト自転車(6時間以内1,500円)などが借りられます。



### 観音山

標高約472m。生口島はもちろん、芸予諸島で最高峰となる山です。頂上からは伯方島や大島、天気良ければ四国山地まで一望できます。



### 石風呂の跡

かつて瀬戸内には石風呂がたくさんありました。



### 高根島灯台 日本の灯台50選に選ばれています。

### 亀の首地藏

海の中に立ち、航海の安全を見守るお地藏さん。昔、人を食べていた亀を退治したときに首が海に落ち、亀のような岩になったという言い伝えがあります。



### 平山郁夫美術館

### 沢港

瀬戸田港

### 瀬戸田港

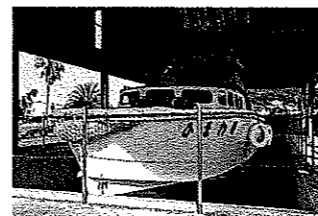
近くに瀬戸田町歴史民俗資料館があります。

### 耕三寺博物館(耕三寺)



瀬戸田おさんぽMAPは次のページへ!

### 生口島



### 文化船ひまわり→P26参照

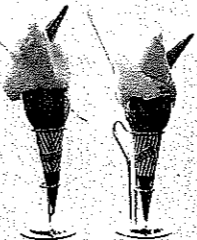
尾道市B&G瀬戸田海洋センターに保存されています。

海に向かってベンチが置かれています。ジェラートをテイクアウトしてどうぞ。



### しまなみドルチェ本店

レモンをはじめ、地元の食材を使ったジェラート(ダブル380円など)約10種が並ぶ。サイクリストのオアシス的存在で、空気入れが用意されています。  
TEL:0845-26-4046  
10:00~日没まで 休:無休



### 赤崎港

### 洲江港

### 西瀬戸自動車道

### 丸樋跡

島内には石積み丸樋跡が。その昔、塩田が広がっていたんです。



目の前はキレイな海! 探しても見に行く価値アリ。



### 嫁いらず観音

お参りすると、老後に嫁の世話にならずに元気で暮らせるという言い伝えが。現在は立ち入り禁止なので、外から参拝を。



# 生口島マップ

IKUCHIJIMA MAP

瀬戸内の太陽をいっぱい浴びて育ったレモンで有名な生口島。島を歩いていると多くのサイクリストとすれ違います。耕三寺や平山郁夫美術館をはじめ、グルメあり、現代アートあり。「文化船ひまわり」も待っています。

### 因島



### ●生口島(いくちじま)

人口/約9,283人(2016年5月)  
面積/約34km<sup>2</sup>

広島・尾道と愛媛・今治を結ぶしまなみ海道にある島。柑橘類の生産地として全国的に知られている。寺社や美術館が点在。地元で採れるタコを使った料理が有名。

### ●島のめぐり方

基本的には車または自転車。自分の自転車を持ち込むのはもちろん、島内にレンタサイクルもあるので、海をながめながらの島一周サイクリングがおすすめ。しまち商店街はぶらぶら歩いて。

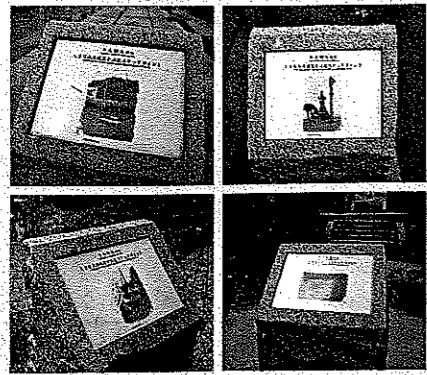
○尾道観光協会 TEL:0848-37-9736

## 島ごと美術館

1989年に開催された世界一小さなアートプロジェクト「瀬戸田ビエンナーレ」の17作品が島内に点在。見つけたときは、ちょっぴりうれしくなります。

- ①岡本敦生/地殻
- ②崔在 銀/地上と地下の間で
- ③福岡道雄/飛石
- ④田中信太郎/一羽の鳥の為に
- ⑤山本正道/海からの贈物
- ⑥西野康造/風の中で(瀬戸田)
- ⑦保田春彦/球を包む幕舎
- ⑧松永 真/千里眼"のぞいてみよう、瀬戸田から世界が見える。"
- ⑨新宮 晋/波の翼
- ⑩宮脇愛子/うつろひ
- ⑪山口牧生/ねそべり石
- ⑫眞板雅文/空へ
- ⑬植松聖二/風のとよきいかたち/傾
- ⑭海老塚耕一/空/海 YURAGI
- ⑮滑川公一/CATS DANCE
- ⑯川上喜三郎/ベルベデーセルとだ
- ⑰青木野枝/塩池





**平山郁夫画伯 しまなみ海道五十三次  
スケッチポイント**

瀬戸田町出身で文化勲章を受賞した日本画家、平山郁夫画伯。しまなみ海道の開通記念に、60点の水彩素描画を描き下ろしました。平山画伯がスケッチした場所60か所にオブジェが設置されています。生口島はもちろん、尾道から今治までの島々にありますので、ぜひ見つけてみてください。



うちのコロックは  
おいしいよ~



**岡哲商店**

笑顔がすてきなお母さんが揚げしてくれるアツアツのコロック(90円)をバクリ。ジャガイモの自然な甘みがふわっと広がります。食べ歩きにぴったり。  
TEL:0845-27-0568  
9:00~18:30頃(売り切れ次第終了)  
休:不定休



**瀬戸田おさんぽMAP**

昔ながらの懐かしい商店が並びおまち商店街のまわりには、地元ならではの名物や見どころが集まっています。のんびり、ぶらり、まちを散歩してみませんか。



←高根大橋



**向上寺**

国宝に指定されている三重塔はやっぱり見逃せません。石段が続きますが、登る価値あり。極彩色が美しい三重塔のほか、本堂や鐘楼も参拝して。  
TEL:0845-27-3377  
8:00~17:00 ※三重塔は見学自由



春にはサクラ、  
初夏にはサツキがキレイ

**法然寺**



レトロな街並みが続いています。  
古い建物を見ながら歩くのも楽しい。

←瀬戸田港



**しまち商店街**

瀬戸田市民会館

島ごと美術館  
P36参照



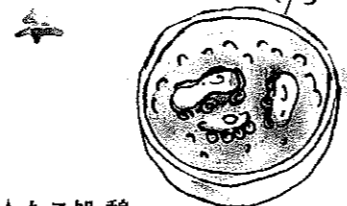
**★わか葉**



夕日の干物を発見

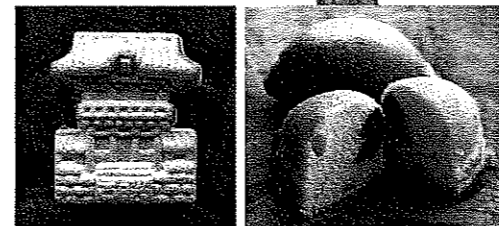
**★→アナゴ&タコ料理が  
味わえるお店**

**未来心の丘**



**★たこ処 憩**

地元の漁師さんから仕入れたタコを使った料理は絶品。たこ飯定食(1,910円)をはじめ、いろいろなタコ料理が並びセットがお得です。  
TEL:0845-27-0105  
11:00~15:00(LO 14:30)  
休:水曜 ※タコの仕入れにより異なる



**瀬戸田梅月堂**

耕三寺の正門前にお菓子屋さん。耕三寺の形がかわいい最中(114円)がおすすめ。さっぱりとした味わいのすっばいレモンケーキ(162円)もぜひ。  
TEL:0845-27-0132  
8:30~18:30  
休:木曜(祝日の場合は営業)



**平山郁夫美術館**

日本を代表する画家、平山郁夫を紹介する美術館。シルクロードや瀬戸内海を描いた大作のほか、子供時代の絵画といった貴重な資料が並びます。  
TEL:0845-27-3800  
9:00~17:00  
※最終入館16:30  
休:不定休

**瀬戸田町  
観光案内所**

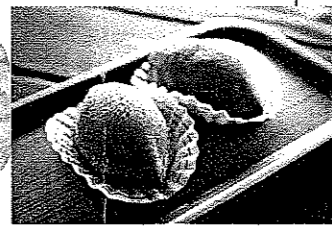
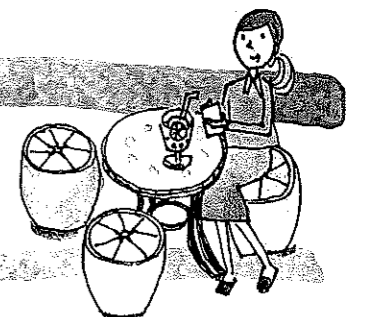


**★万作**



**みくに農園**

地元で採れたみかんやレモンなどを販売。農家直売なので、お手頃価格です。秋にはみかん狩りも楽しめます。  
TEL:0845-27-0743  
10:00~16:00 休:不定休



**島ごころSETODA**

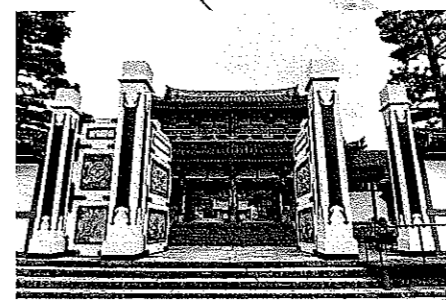
瀬戸田レモンを使用したレモンケーキ(1個250円)が看板メニュー。イートインスペースがあり、購入したレモンケーキを味わいながら無料でコーヒーがいただけます。  
TEL:0845-27-0353 10:00~17:00 休:無休(1月1日は除く、臨時休業あり)

**耕三寺博物館(耕三寺)**

豪華絢爛な浄土真宗の寺院。総高約15mを誇る救世観音大尊像は必見。附属の博物館では国の重要文化財の仏像などが展示されています。また、大理石庭園「未来心の丘」には、真っ白いアートな空間が広がっています。  
TEL:0845-27-0800  
9:00~17:00 ※潮聲閣(別館)は10:00~16:00 休:無休  
入館料:大人1,400円、大学生1,000円、高校生800円  
(耕三寺境内・未来心の丘・金剛館など見学料として、潮聲閣は別途200円)

**自転車CAFE&BAR汐待亭**

古民家を再生したカフェバー。店主が自転車を整備してくれるので、サイクリストも多く訪れています。岡哲商店のコロックを持ち込んで食べることもOK。  
TEL:0845-25-6572 カフェ11:00~16:00、バー19:00~22:00  
休:月曜 ※バーは日曜



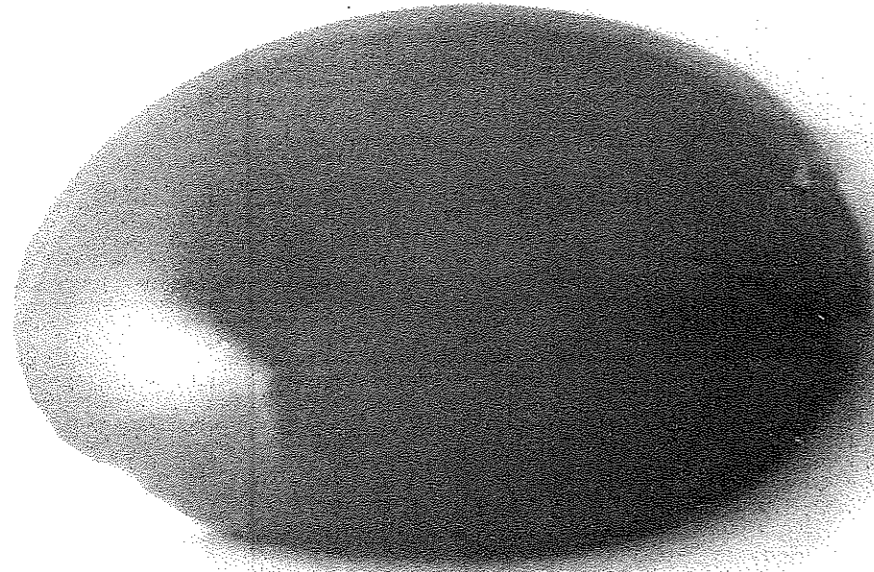


JAグループの  
食農教育をすすめる  
子ども雑誌



Child  
Agriculture  
Green

# ちかどりん

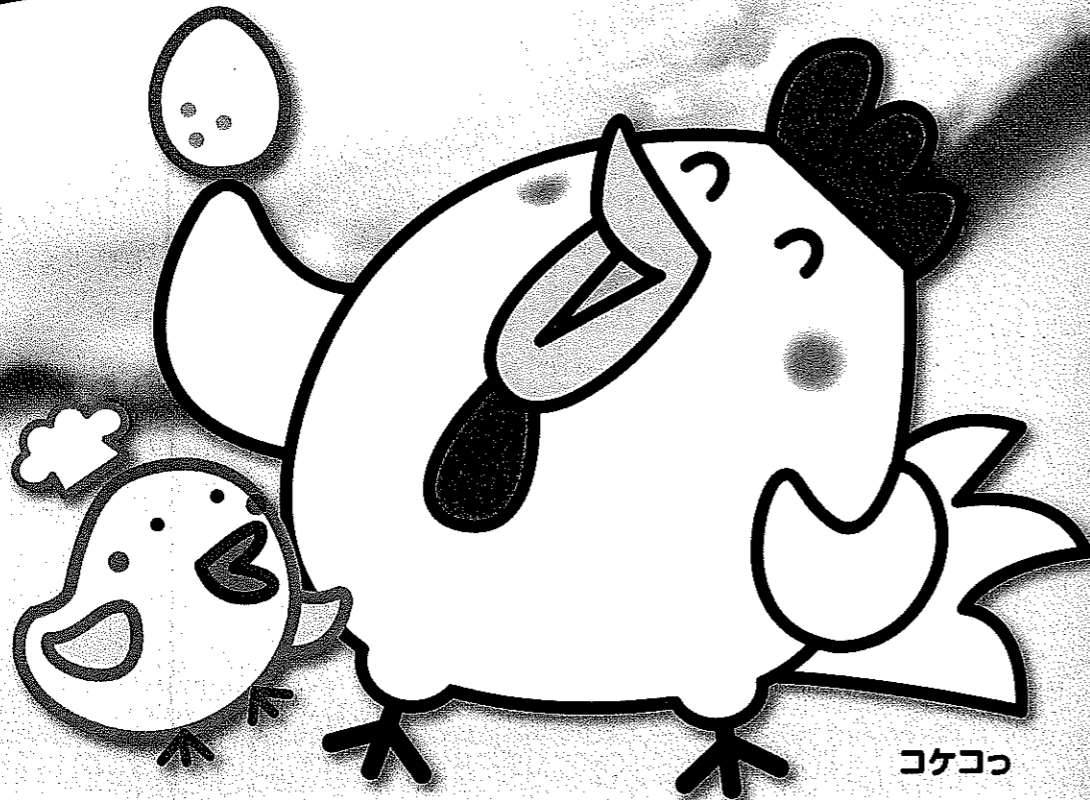


入学・進級お祝い号

小島よしおの野菜はトモダチ!

左依先生のサイエンスクッキング

ホットケーキミックスでいつでもおやつ



5

2018



# ゆれくる遊撃隊のレッツ防災術

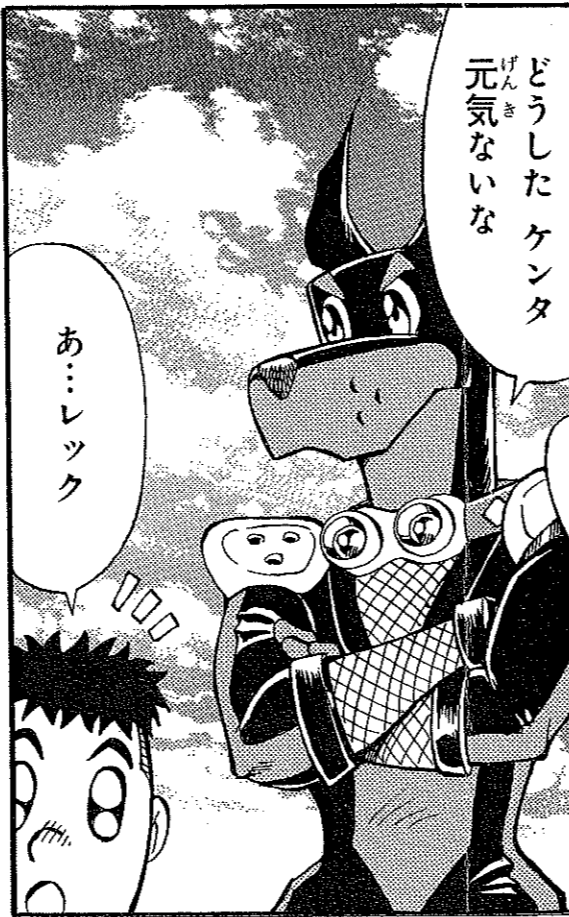
だい かい びょうしき  
第13回 だいじな標識!

©ゆれくる遊撃隊/アールシーソリューション株式会社2014 All rights reserved

まつもとひさし  
松本久志

キャラクターデザイン:いくなつく  
監修:国崎信江(危機管理教育研究所代表)

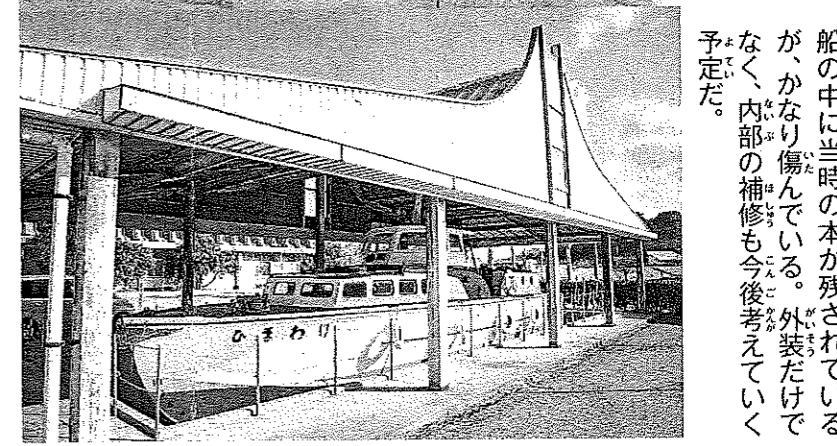
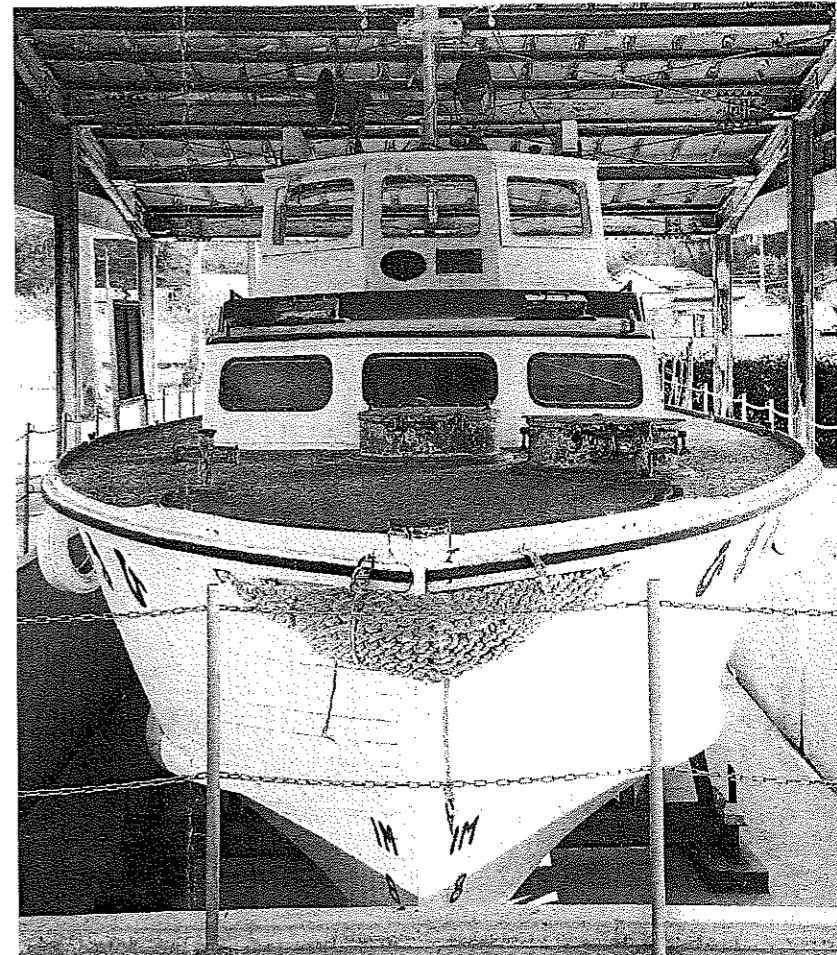
きみの町にはどんな標識があるかな?



永井さんは船の好きな仲間(な)に声をかけ、ボランテア(ボランティア)で修復(しゅうふく)を始めました。造船所(ぞうせんじょ)からペンキ(ペンキ)をゆずってもらい、足りない分(ぶん)は買い足(かひた)し、割(わり)れた窓(まど)ガラスにはプラスチ(プラスチック)ック(ック)をはめ込んできれいにしました。すると、近く(ちかく)にある瀬戸田(せとだ)中学校(ちゅうがっこう)の生徒(せいと)たちも「おもしろそう」と、ペンキ(ペンキ)ぬりを手伝(てつだ)うようになったのです。

**船(ふね)の理念(りねん)を伝える新(あたら)しい役割(やくわり)を**  
そのうち、この様子(ようす)がいろいろな人(ひと)に伝わ(つた)って、活動(かっどう)を支援(しえん)する人(ひと)たちが出てきました。その一人(ひとり)が童話(どうわ)作家(さか)の林原(はやら)玉枝(たまえ)さん。平和(へいわ)のために船(ふね)を造(つく)った、その理念(りねん)に胸(むね)を打(う)たれたと話(はな)します。

「なぜ、たぐさんの本(ほん)を読む(よ)むことが平和(へいわ)につなが(つな)がるのでしょうか? それは、たぐさんの知識(ちしき)があればあるほど、わたしたちは正しい判断(はんぱん)が下(くだ)せるようになるからです。そのため(ため)に、図書館(としよかん)はあらゆる分野(ぶんや)の本(ほん)を紹介(しょうかい)しなければいけないし、読み手(よみて)のわたしたちにも、なんでも知る権利(けんり)があります。それが平和(へいわ)をつくっていくのだと思います」  
昨年(さくねん)11月(がつ)に「文化(ぶんか)船(ふね)ひまわりBBプロジェクト」が結成(けっせい)されました。高校(こうこう)の先生(せんせい)やイラストレーター、音楽家(おんがくか)など、15人(にん)が参加(さんか)しています。  
ペンキ(ペンキ)がぬり直(なお)され、きれいになった船(ふね)では、お祭り(まつり)も開(ひら)かれました。子どもたち(こどもたち)に絵本(えほん)を読み聞(よみき)かせたり、いっしょに歌(うた)を歌(うた)ったり。昔(むかし)のようにおおぜいの人(ひと)に囲(かこ)まれ、船(ふね)はかがやいて見(み)えます。  
解体(かいたい)を進(すす)めていた市(し)も、「こわしません」と、中止(ちゅうし)を約束(やくそく)してくれました。かつての立派(りっぱ)な姿(すがた)を取りもどした「文化(ぶんか)船(ふね)ひまわり」。島々(しまづま)に本(ほん)を届(とど)けた人々(ひとびと)の思い(おもひ)を今(いま)に伝える貴重(きじゆう)な船(ふね)は、今後(こんご)どんなかたちで活用(かつよう)されるのか。ふたたび熱(あつ)い視線(しせん)が注(そそ)がれています。



船(ふね)の中に当(あた)時の本(ほん)が残(のこ)されているが、かなり傷(いた)んでいる。外装(がいそう)だけでなく、内部(うちぶ)の補修(ほしゅう)も今後(こんご)考えていく予定(よそだ)だ。

文化(ぶんか)船(ふね)ひまわりのペーパークラフト(紙工作)ができました。「瀬戸内(せとうち)人(ひと)」ホームページ(ホームページ)で買(か)うことができ、代金(だい金)の一部(いっぶ)は保存(ぼくぞん)活動(かっどう)にあてられます。瀬戸内(せとうち)人(ひと) On line shop (<http://store.setouchibito.co.jp>)



# 日本にたった一せきしかない船

広場にボツンと展示された船。ペンキははげ、窓ガラスは割れ、立ち止まって見る人もいません。近くに住む医師の永井晃さんは船の前を通るたび、「だれか手入れをしてあげればいいのに」と思っていました。しかし、何年たっても船はそのまま。やがて、その船は取りこわされることになりました。それを知った永井さんは、「ちょっと待ってください！」と、とうとう立ち上がります。

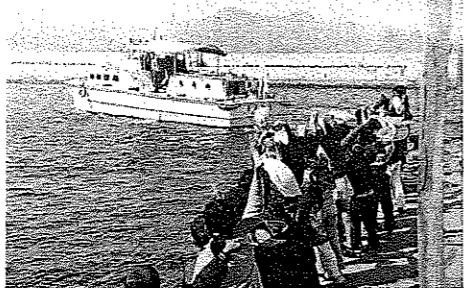
じつは、この船こそが日本にたった一せきしかない「文化船ひまわり」。今のように入ターネットもスマートフォンも、本土と島を結ぶ橋すらもなかった時代、本をどつきり積み込んで、瀬戸内海の島々に2か月に1回、本を届けていました。「まだ来ないかな」「次はいつ来るかな」と、人々が待ちわびる存在だったのです。

## 平和を育むために本を届ける

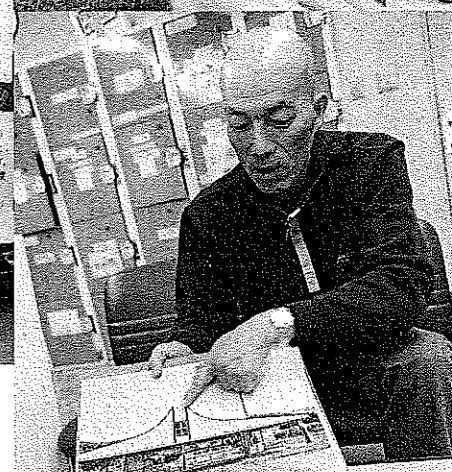
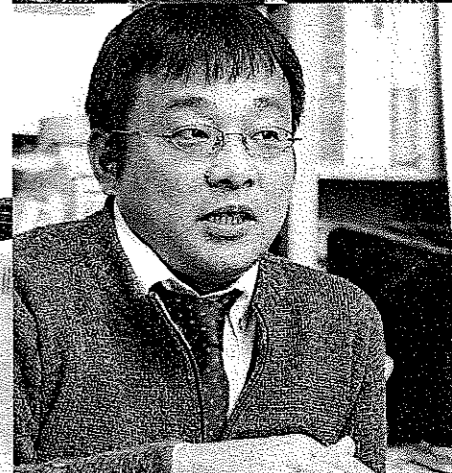
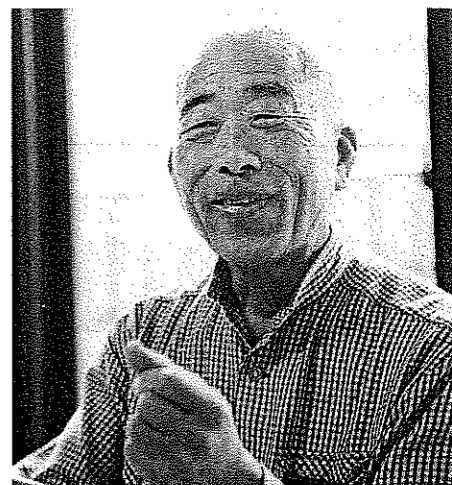
1945年8月6日に、世界で初めて原時 島の人口の約1割に当たる25万人の人が島に住んでいました。大型船が入る港がなければ、移動図書館車を船にのせることもできませんが、そんな大きな港を持つ島は多くはありません。そこで造られたのが、スマートな船体の「文化船ひまわり」です。全長14メートルで、船内の本だに並べられた本はおよそ1500冊。1962年4月、瀬戸内の青い海にすべり出した船



当時の写真には、だいたいその人に本を持ち帰る大人の姿や、おおよそ船を見送る姿がある。



「わたしがペンキをぬってきれいにします。だから、こわすのだけは待ってもらえませんか」と、市にかけあった医師の永井さん(右)。現在、BBプロジェクトの代表を務める瀬戸田藤由先生(中)と高校の藤由先生(左)が協力している。広島県立図書館の植田さん(右下)。図書館には「文化船ひまわり」の模型や、当時の航海日誌が展示されている(左下)。



子爆弾が落とされた広島県。「戦争は国と国がわかり合えないことで起こる。ほかの国の文化を知り、たがいの理解を深めることが平和につながる」。そう考えた教育委員会や図書館の人たちは、原爆投下から十年もたたないうちに、図書館のない地域へ、移動図書館車の運行をスタートさせます。

しかし、広島県には小さな島が多く、当時は行く先々の島で熱狂的にむかえられませんでした。「そのころは、島を出て町へ本を買いに行くのは一日仕事。『文化船ひまわり』は、子どもだけでなく、大人たちにも大人気でした。島で栽培されているミカンの専門書などがよく読まれていたそうですよ」と、広島県立図書館副館長の植田佳宏さんは話します。ときには映画フィルムも積み込まれ、停



そうです。「文化船ひまわり」は、海に向かうには大きな世界が広がっていることを島の人たちに教えてくれました。

## すんでのところ解体ストップ

瀬戸内海に浮かぶ19の島々へ、約20年間にわたって本を届け続けた「文化船ひまわり」。やがて島には橋がかかり、大きな港もできて、1981年7月に引退。その後は、生口島(尾道市)のB&G海洋センターの広場に展示されることになりました。しかし、「文化船ひまわり」のことを覚えている人はだんだん少なくなっています。やがて、ただのおんぼろ船としか思われなくなりました。

そうやって、いよいよ解体されることが決まった矢先、永井さんが待ったをかけたのです。とはいえ、「文化船ひまわり」が活躍した当時、永井さんは高校生。船を利用したことはなく、歴史もよく知りません。ただ、その姿に「これはこわしてはいけない」と、感じたのでした。





「文化船ひまわりBBプロジェクト」のメンバーたち。中央にいるのが、童話作家の林原玉枝さん。

あったか  
ドキュメント  
ひと  
人

# 「文化船ひまわり」を 知っていますか？

文化船ひまわりBBプロジェクト

かつて広島県の島々をめぐり、島に図書を届けていた「文化船ひまわり」。その歴史を伝え、船の保存を進めようという人々が集まり、「文化船ひまわりBBプロジェクト」（BBとは、ブック・ボートの略）をスタートさせました。その活動を紹介します。



文/柿野明子 写真/吉田真也





# せとうちスタイル

おいしい  
瀬戸内、  
見つけに行こう。

特集

おいしいのそばには、  
すてきな風景がある。

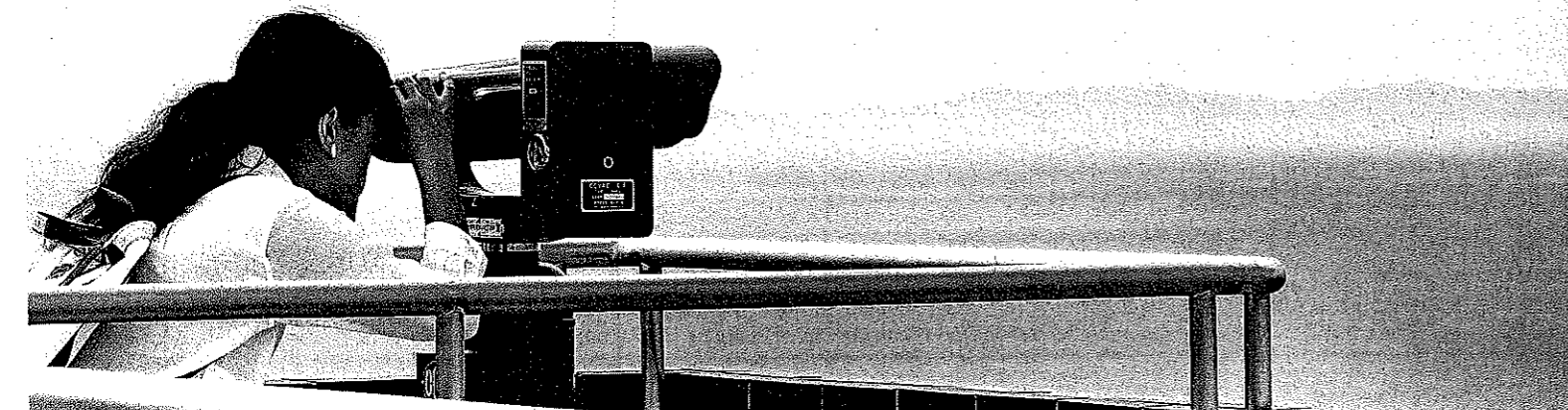
豊島／広島 淡路島／兵庫 生口島／広島

大人ごはん×せとうちスタイル

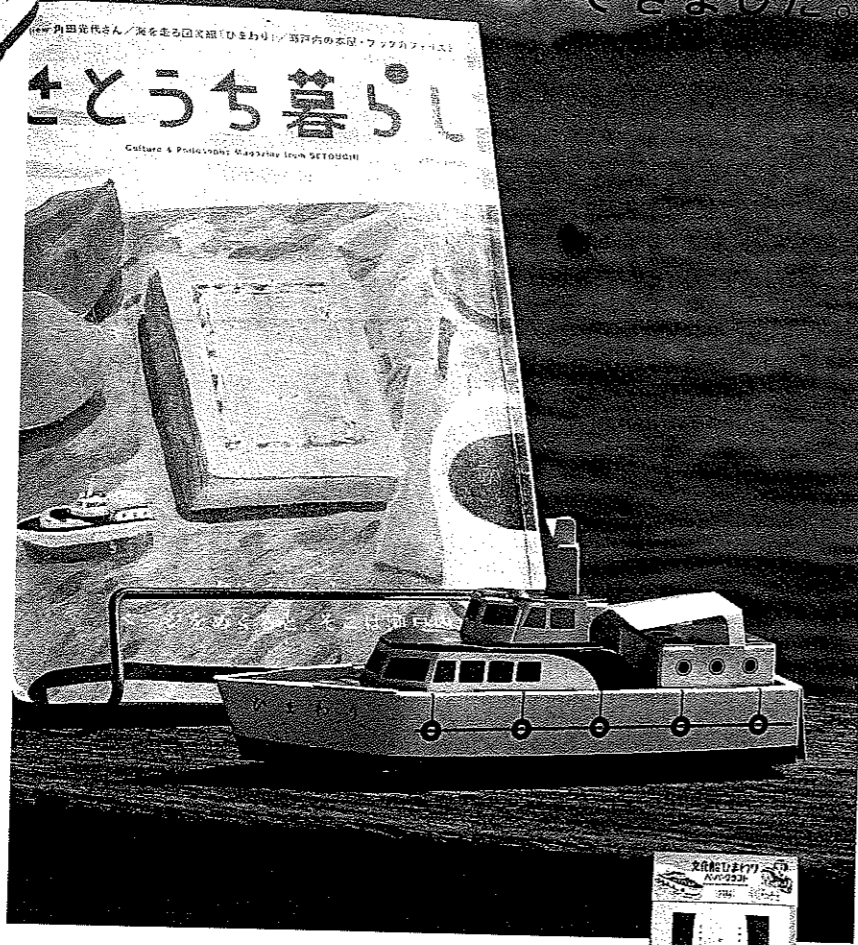
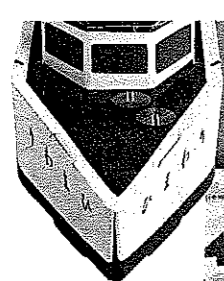
小豆島の食卓探訪 島のお母さんにご飯をつくってもらいました。



瀬戸内のいいもの、  
おいしいもの集めました







文化船ひまわりペーパークラフト&せとうち暮らし20号セット 1,400円  
 文化船ひまわりペーパークラフト 500円  
 ◎瀬戸内人オンラインショップで販売中  
<http://store.setouchibito.co.jp>

「文化船ひまわり」の  
 ペーパークラフトが  
 できました。



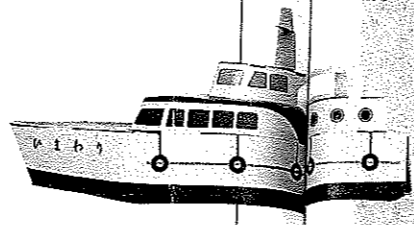
8月には、貸切フェリーで「文化船ひまわり祭り」を開催。船上図書館で、絵本の読み語りなどを行いました。花火観賞もあり、たくさんの人で大にぎわい

船体が保存されている、尾道市B&G瀬戸田海洋センターへの案内看板。手描きのイラストが印象的です

【活動レポート】

日本で唯一の船の図書館「文化船ひまわり」。1960年代から、瀬戸内海の島々をめぐってたくさんの島の人たちに本を届けていました。島に橋が架かるようになり、1981年に引退。生口島に残っていた船体は解体予定でしたが、保存活動を続ける地元の方たちのおかげで、いまはきれいに保存されています。現在も、さまざまな形で続いている、このひまわりの保存活動。今回ついに、ひまわりを愛する人たちによって、「文化船ひまわり」のペーパークラフト組み立てセットが完成しました。白とオレンジのツートンカラーは、当時の姿を再現しています。

ペーパークラフトの完成を記念して、文化船ひまわりの物語を紹介した「せとうち暮らし」20号とペーパークラフトをセットで販売。2018年1月末までの期間限定です。詳しくは、瀬戸内人オンラインショップをチェックしてください。



高根島灯台  
 日本の灯台50選に選ばれている石造りの灯台。三原の筆影山や因島、大久野島などを一望できます。

高根島



Koune Paradiso  
 高根パラディーゾ

島の食材を使った料理が味わえる古民家カフェ。音楽好きのマスターがセレクトした音楽を聴きながら、リラックスタイムを過ごせます。  
 TEL: 090-8993-1424

自転車カフェ&バー  
 汐待亭

元庄屋の日本家屋を改装したカフェバー。隠し味にみかん蜂蜜を使ったココのあるカレーに、岡哲商店のコロッケを持ち込んでトッピングすることもできます。  
 TEL: 0845-25-6572



岡哲商店

しお月商店街にある、人気のコロッケ屋さん。揚げたてがうれしいピーマンコロッケ(90円)は、ジャガイモの素朴な甘さがたまりません。  
 TEL: 0845-27-0568

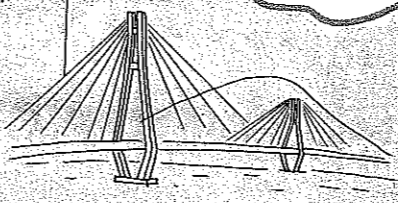


玉木商店

創業55年の地元の人に愛されるローストチキンは、足(もも)390円。特製タレでじっくり焼き上げた、食欲をそそる味わい。食べやすいサイズにもカットしてくれます。  
 TEL: 0845-27-0239



Ikuchijima



多々羅大橋

生口島と大三島をつなぐ、しまなみ海道の橋。大三島にある道の駅多々羅しまなみ公園から眺めるのがおすすめです。

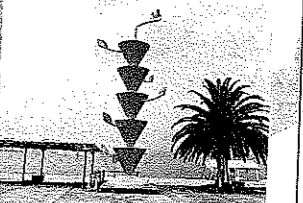
嫁いらす観音

お参りすれば、老後に嫁の世話に元気で暮らせるといわれている観音様。現在は立ち入り禁止なので、外から参拝しましょう。



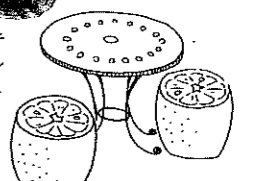
島ごと美術館

ぐるりと島を囲むようにして点在する不思議なアート作品。「瀬戸田ビエンナーレ」で制作された17作品を見つけると、少しうれしくなります。



島ごころ 瀬戸田本店

瀬戸田レモンを使ったレモンケーキが名物。本店限定の焼きたてレモンケーキ(250円)も味わえます。イートインスペースは無料のコーヒーも。  
 TEL: 0845-27-0353



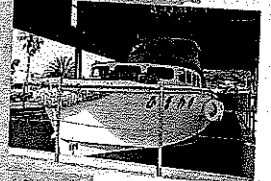
耕三寺博物館(耕三寺)

仏像や書画など、多くの重要文化財が展示されている、豪華絢爛な浄土真宗の寺院。大理石庭園「未来心の丘」も注目です。入館料は大人1,400円。  
 TEL: 0845-27-0800



文化船ひまわり→P37参照

1960年代から80年代まで、島の人々に本の貸出をおこなっていた移動図書館船。惜しまれながらも昭和56年に引退。尾道市B&G瀬戸田海洋センターに保存されています。



岩城島